

令和元年度特定非営利活動法人オアシス臨時総会

令和元年 10 月 27 日 15 : 00

於 蒲郡荘

次第

1 理事長挨拶 会員43名 (引会足立)

- ・議長選出 足立
- ・書記任命 篠田
- ・議事録署名者委嘱 平田・山本

2 議事

第 1 号議案 令和元年度事業中間報告の承認について 山本

- ・海外支援に関わる事業
- ・国内公演・奉仕・国際理解推進（講演・研修）に関わる事業

第 2 号議案 令和元年度収支予算書修正（案）の承認について

第 3 号議案 令和元年度後期会議・事業の承認について

第 4 号議案 令和 2 年度事業助成申請案件の承認について

3 意見交流

- ア 高校併設への支援活動の見通し
- イ 招へい事業の課題と見通し
- ウ 公募ツアーの見通し
- エ 認定NPO法人化への課題

《参考》本会の成立要件

（定足数）定款第 26 条「総会は、正会員数の 2 分の 1 以上の出席がなければ開会することができない。」

第1号議案 令和元年度事業中間報告の承認について

(1) 海外支援関係事業 決算額 10月末日現在

① カンボジア教員研修交流（招へい）事業

事業決算額 1,604,617円

本年度初の試みとして、現職教員9名の参加を得て「公募カンボジア訪問教育活動支援ツアー」を8月7日～11日に実施した。アンコール遺跡周辺のごみ拾い活動を通しての中学生との交流や先生たちとの懇親会など、一般の観光旅行では味わえない特色あるツアーが実施できた。（資料Ⅰ感想メモ参照）

本年度第7回を迎える招へい事業は、シェムリアップ州教育局職員1名及びバイヨン中学校3名の教員を招へいし、9月8日～14日の日程で実施した。主として設楽町・豊根村・豊田市の3中学校及び教育施設での研修を行った。（資料Ⅱ使節団員感想メモ参照）

② カンボジア教育活動支援事業

事業決算額 452,785円

本年度第1回5月定期訪問には、理科・音楽・美術・体育・環境で合計59時間の授業実践を行った。新たに美術「9年生：パステル画への挑戦」を実施し、初の自作作品を完成させた。後期においては、養成学校の運動会練習や家庭科「ナップザック制作」などを加え、年間授業実践時間が150時間を超え支援活動開始以来最高の実践時間になる予定である。

③ シェムリアップ市域環境保全事業

事業決算額 270,000円

昨年度より立ち上げたバイヨン中学校の環境教育において、7年生は学区、8年生はトンレサップ湖、9年生はアンコール遺跡に関わる環境保護活動を実施した。今年度より活動用の緑色のビブス250着を寄贈し、活動時にはそろって着用することで市民・観光客への啓発効果もねらっている。8月の訪問では公募ツアー参加者も加わってアンコールワット周辺のゴミ拾い活動を実施した。

(2) 国際理解推進（授業・講演等）・国内牽仕・公演に関わる事業（10月末日現在）

① 国際理解・講演会事業

【アステ国際フェスタ】 5月26日（日） 於：豊田アステ研修センター 法人参加者10名
「カンボジアにおける生活文化の掘り起こしと創造」（発表：神崎・清水・篠田）

【カンボジア子ども絵画展・国際理解教育（資料Ⅲ参照）】 豊川市立一宮西部小（講師：清水）
巡回展：9月11日～10月31日 講演・指導4回（9/24 10/16 10/30 10/31）

【公募カンボジア訪問ツアーパネル懇話会】 8月25日（日） 於：蒲郡荘 参加者32名

【あいち国際交流はなのき会2019セミナー】 10月5日（土） 於：豊川ブリオ 法人参加者8名
「今、カンボジア支援活動からみえてくること（資料Ⅳ）」（発表：足立・金田カ・金田フ・篠田）

【寄付のゼミナール in あいち】 10月25日（金） 於：蒲郡高等学校 法人参加者7名
「グローバル社会に育つカンボジア学校づくり支援（資料Ⅴ参照）」（発表：金田フ・篠田）

② 2020年カレンダー制作

事業決算額 0円 11月中の完成をめざしている。

③ マジック公演・牽仕事業

・マジック公演・マジック講座回数 34回

第2号議案

令和元年度特定非営利活動に係わる収支予算書修正(案)
平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人オアシス

科 目	金 額 (円)		科 目
I 経常収入の部			
1 財産運用収入		0	
2 会費・入会金収入		215,000	
1) 会員会費収入	215,000		会員43名×5,000円
3 補助金等収入		236,200	
1) 民間補助金収入	35,000 101,200 100,000		蒲郡国際交流協会助成金 アジア・市民交流プログラム助成金(前年度差異分) 寄付のゼミナールinあいち2019
4 寄付金収入		4,115,000	
1) カンボジア特別支援基金	915,000		募金・寄付金
2) カンボジア支援活動寄付	2,900,000		航空運賃1人80,000円×35人(年4回)、教材費
3) 招聘事業特別寄付	300,000		社員及び協賛者特別寄付金
5 雑収入		50	
1) 雑収入	50		利息
経常収入合計(A)		4,566,250	
II 経常支出の部			
1 事業費		4,420,000	
1) カンボジア教員研修交流事業	700,000		事業計画書参照
2) カンボジア教育活動支援事業	2,900,000		事業計画書参照(蒲郡国際交流協会助成金を含む)
3) シェムリアップ市域環境保全事業	550,000		事業計画書参照
4) 国際理解・啓発事業	70,000		事業計画書参照
5) カレンダー作成事業	200,000		事業計画書参照
2 管理費		91,000	
1) 会議費	25,000		
2) 旅費交通費	5,000		
3) 通信費	20,000		
4) 広報印刷費	10,000		
5) 文具類等消耗品費	20,000		
6) 外国送金・輸送費代	1,000		
7) 雑費	10,000		
経常支出合計(B)		4,511,000	
経常収支差額(A-B)=(C)		55,250	
前期繰越収支差額(D)		692,921	
次期繰越収支差額(C+D)		748,171	

第3号議案 令和元年度後期会議・事業の承認について

ア 第2回カンボジア訪問

日時：11月13日（水）～22日（金）

班編成：1班（◎神崎・金田・近藤・寛^キ・寛^ハ） 2班（○篠田・牧野・森下・鈴木）
3班（○清水^タ・加藤・山本^カ） 計12名

主な活動：運動会練習、トンレサップ湖環境保護活動、各教科授業実践

イ カレンダー制作

- ・当初10月完成を目指していたが、1か月遅延する。11月の訪問で、さらに写真撮影続行。
- ・発行部数は100部増刷500部とし、バイヨン中学校への支援金分を増額する。

※支援金寄附者：1部進呈 販売：1000円 10\$（カンボジア）

ウ カンボジア訪問事前打ち合わせ会・新年会

- ・第3回訪問事前打合せ会 ⇒ 1月5日（日）10:30 於：市民会館2F喫茶
- ・新年会 ⇒ 1月5日（日）12:00 場所（未定）

エ 第3回カンボジア訪問

日時：令和2年1月13日（月）～21日（火） 訪問者14名（予定）

主な活動：教員養成学校運動会（18日）、バイヨン中学校運動会（19日）

オ TIA世界塾

- ・世界塾講師募集応募済（書類選考により決定）
- ・日時：令和2年2月9日（日）13:00～16:00
- ・場所：豊田市国際交流センター内
- ・発表テーマ「母国カンボジアの持続可能な環境保護への第一歩
— バイヨン中学校環境教育の取り組みから — 発表者（杉浦・山本^カ）」

第4号議案 令和2年度事業助成申請案件の承認について

《意見交流》

ア 高校併設への支援活動の見通し

イ 招へい事業の課題と見通し

ウ 公募ツアーの見通し

エ 認定NPO法人化への課題

その他

公募ツアー参加者 100 字コメント「新たな発見 in カンボジア」

日本 ⇒ カンボジア

愛知県下9名の
先生方の参加を
得て実施

本ツアーは、バイヨン中学校での環境教育の実践活動を通して、現地の学校と子どもたち、さらに世界遺産と環境保護についての実際を理解することを目的として企画した本法人主催の事業です。以下は主な日程です。

8月7日 10:15 セントレア発 夜：学校関係者との打合せ・懇談

8月8日 午前：学校参観・9年生環境授業参観 午後：シェムリアップ市内散策

8月9日 午前：ゴミ拾い活動への参加 午後：遺跡見学 夜：先生との交流会

8月10日 午前：遺跡・トルップ湖見学 午後：帰国準備 夜：シェムリアップ発帰国

《N. Y先生》 できる、できないを超えた純粋な笑顔。笑顔のもつ力の強さをひしひしと感じた。喜びを分かち合うとき、困っているとき、協働するとき。カンボジアで感じた万国共通の力「笑顔」で、心の交流をしていきたい。

《S. M先生》 初訪問のカンボジア。中学校の生徒の純粋さや人懐っこさ、5kmゴミ拾いのゴミの多さ、教師との交流、子どもの運転や何人乗せるかというバイク、憧れのアンコール遺跡見学、水上生活、すべてが新しい発見でした。

《Y. N先生》 シェムリアップ空港で目に留まったのが、女性トイレの表示。一般的なスカート型ではなく、男性との違いは、胴体のくびれとカールした髪。「女性＝スカート」という固定観念を払拭する斬新さ・軽やかさを感じた。

《S. N先生》 私の発見は、植物の成長の速さです。カンボジアには冬がないため、木々が成長し続け、あっという間に大きくなり、日本のような年輪ができないということに驚きました。気候による違いに興味をもちました。

《H. E先生》 前回の訪問との一番の違いは現地の人との触れ合いの量！カンボジア国民の「いろんな意味でざっくりしているところ」に心がほんわかしました。日本人に今一番必要なものかもしれません。

《K. E先生》 教育はきっかけづくりだと感じた旅でした。私たち教員は、学力をつけさせるのも大事な役割。でも、それ以上に、目の前の土壌を豊かにし、道を切り拓いていくきっかけをつくることも大切な役目だと思います。

《F. A先生》 カンボジアでは、自動車もバイクもトゥクトゥクも走っている道を信号機や横断歩道を使わずに渡っていました。それでも、事故が起こらないのは、みんながゆったりした気持ちで譲り合っているからだと思いました。

《S. Y先生》 カンボジアで強く印象に残ったのは、情熱です。バイヨン中学校に関わっている多くの方々の情熱を間近に見ることができました。多忙な毎日の中で、生徒の成長のための情熱をなくさないようにしたいと改めて感じました。

《I. A先生》 子どもたちの学ぶ姿勢が素晴らしい！環境学習やゴミ拾い活動を通し、「新しいことを学びたい」「自分たちの町や国を綺麗にしたい」という思いが、表情や行動から滲み出ていました。

カンボジア

⇒ **日本**

州教育局の先生1名

バ・バソ中の先生3名

9日：セントレア→竹島→蒲郡科学館→設楽町役場→奥三河総合センター（泊）

10日：設楽中学校（1日参観）→奥三河総合センター（泊）

11日：豊根中学校→チョウザメ養殖場→茶臼山→関谷酒造→奥三河総合センター（泊）

12日：豊田スタジアム→エコタウン→TIA→トヨタ会館→豊田プレステージH（泊）

13日：浄水中学校→名古屋散策→豊田プレステージH（泊） 14日朝帰国

〔使節団員のもっとも印象深かったこと〕

セレイバシー（S）：先生たちが校長先生を、生徒が先生をというようにお互いを尊敬し合っている。

ソリア（SR）：学校と地域がひとつになって運営する浄水中学校コミュニティースクールのあり方がすごい。

レイ（R）：日本人は時間に正確で、いつも余裕をもって行動が来ている。

チン（C）：どこの学校も体育館が大変大きく、それぞれのスポーツ用具がたくさん整理して用意されている。

〔9月9日〕 ◆竹島の橋の上から魚（エイ）が泳いでいるのが見えた。水がきれいだからこそのこと。

◆蒲郡科学館でのスカイプ通信でルー校長と話ができて感激。浅井先生の空気に関する科学ショーでは、空気に関さがあることが分かった。これからもバイヨン中学校に対して継続してスカイプ通信で実験を見せてほしい。

〔9月10日〕 ◆設楽中学校は学校の施設が整い、いろいろな教具も充実。さらに先生と生徒の関係もよく大変ハッピーな学校。（R） ◆新任の先生の体育授業で、退職した先生が記録を取り指導している。とてもよいことでうらやましく感じた。（SR） ◆体育館が広い。それに加えて、卓球場（武道場）まであってすごい。（C） ◆夕食では、「チョロモイ（乾杯）」の繰り返しで、オアシスのみなさんとの交流が深まり楽しいひと時だった。

〔9月11日〕 ◆設楽中・豊根中学校は校長先生がいなくても、他の先生たちが協力して運営しておりカンボジアと違っている。これらのような学校になるとよい。（SR） ◆古月先生の授業を1時間参観した。アメリカ人の先生も加わりとてもアクティブな授業で参考になった。しかし、バイヨンは生徒の数が多いのでちょっと無理かな。（SR） ◆先生と生徒が協力して授業をつくっている。バイヨンの授業でも生徒を活動させたい。（R） ◆チョウザメ養殖では大きな魚がたくさんおり、びっくり！水がきれいでいつも循環しているから養殖が可能。カンボジアの水では無理？ ◆昼食にチョウザメの刺身が出た。おいしかった。 ◆茶臼山の頂上からの景色は、まわりがすべて山で遠くまで見えた。こんな景色は初めて。いろいろな花が植えられており綺麗。山の上は涼しく、とても快適であった。 ※当日午後の気温、茶臼山23度、田口28度、蒲郡31度（車による外気温）

〔9月12日〕 ◆豊田スタジアムの大きさにびっくり、スタンドに入ったときグラウンドの芝の緑の美しさにおもわず「おー！」と声をあげてしまった。 ◆豊田国際交流協会豊田会長から、日本語弁論大会を実施して成績優秀者を日本へ招聘してみてもは。ホームステイを受け入れる体制ができているのでぜひ豊田へ来てくださいとの提言があった。生徒の日本語学習意欲が高まること間違いなし。 ◆トヨタ会館では、トヨタの新しい車や開発途中の未来の車にも試乗でき感激。

〔9月13日〕 ◆体育施設や用具がとても充実している。特に、プールが屋上にあってとても機能的に造られている。（C） ◆前の2つの学校と同様に、校長先生がいなくても他の先生が協力して私たちに対応してくれた。カンボジアの学校ももっと日本のスタイルを取り入れるとよい。（S） ◆学校と地域とがお互いの事業を協力し合いながら運営している新しい学校。バイヨン中学校も地域との協働を取り入れるともっと学校が発展すると思う。

（SR） ◆先生と生徒の関係がきちっとしておりみんな礼儀正しい。（R） ◆名古屋駅周辺は人が一杯で、ゆっくり歩けない。（SR） ◆ビルの上に木が植えられ公園ができている。カンボジアでは考えられない。（R） 【全般】 ◆日本のご飯は粘りが強く、少しの量でおなか膨れる。日本で食べた食事はおかずの品数が多く、いつも腹一杯。体重が確実に増えた。 ◆日本はすべてがクリーンでゴミが落ちていない。

本メモは、使節団員4名のみなさんのその時々のお話、つぶやき、表情及びチェン・ソリア氏と海上明宏氏の英語通訳を通しての記録メモである。（一部記録者の推察内容も含む） 記録者：足立泰敏

小さな美術スクール絵画展(豊川市立一宮西部小学校編)

清水孝子

- 1、期 日 2019年9月11日～10月31日
(10月31日研究発表会当日まで)

2、絵画展中の取り組み

絵画展に並行して、カンボジアに関するたくさんの取り組みをしてくださっていました。

例えば、お昼の放送で、「カンボジアの面積や人口、主な産業などの概要の紹介」「『JSTだより』に掲載された授業後家計を助けるために働く生徒の記事の紹介」「『私が気に入った一枚』の紹介」などを流す。図書館に、絵本「地雷ではなく花をください」など、カンボジア関連の本をそろえる。絵画展の場所に、声の出る地球儀を置く(国歌が流れるらしい)など、絵を展示していただけるだけでもありがたいのに、たくさんの取り組みに感激しました。

また、絵画展期間中、カンボジアの話もさせていただきました。

(1)「カンボジアってどんな国？」(9/24) 全校児童

カンボジアの挨拶。カンボジアの位置や気候。雨季と乾季で大きさが変わるトンレサップ湖、水上高床住居のコンポンプルック村、湖に浮かぶチョンクニア村。世界中から観光客が訪れるアンコールワット、あちこちで咲いている蓮の花。私たちが行くアンコールクラウ村。絵や写真からわかる子どもたちの生活など

(2)「カンボジアのお米はおいしい!・・・らしい」(10/16) 5年生全3クラス

カンボジアの米作り(田植え～稲刈り、脱穀、精米)、米の消費量、カンボジア産「マリスアンコール」がワールドベストライスコンテスト2018で世界一の米に。

カンボジア米を食べてみたい。

↓

「カンボジア米を食べてみよう」(10/30) 5年3組

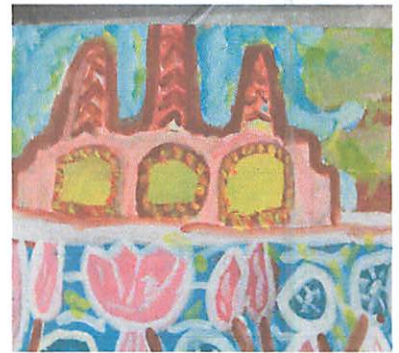
エックケインさん(チャーイナットさんの従兄弟)を講師にカンボジアカレー作りとカンボジア米試食予定。(カンボジア米は日本では手に入らないため、ナットさんがカンボジアに出かけた友人に購入を依頼)

(3)「カンボジアで出会った人々」(10/16) 6年2組

笠原知子先生、メアス博子さんを中心に 国際親善、そして、自分のことを少し。

3、その他

- ・絵の感想も書かせてくれてあるので、11月の訪問の時、笠原先生に届けます。
- ・校長先生は、「児童会で絵を1枚購入しようかなと思う」とも話されていましたが・・・。
- ・校長先生から、「10月31日に行う一宮西部小学校の研究発表に、オアシスの皆様もぜひお越しください」ということで、案内状を預かってきました。私が関係しているのは、5年3組(総合的な学習)と6年2組(道徳)、少しは授業の役に立っているといいなあ。



講演骨子 『今、カンボジア支援活動からみえてくること』

① 自己紹介

- ・地図大好き少年の夢
立体地図模型 → 社会科教員「飢餓大陸と私たち」 → オアシス
- ・人生後半をギアチェンジさせる活動
カンボジア支援活動 ミカン栽培

② 参会者への『カンボジア意識調査』(挙手)

- ア カンボジアの地図上の位置も不確かで、知っていることがほとんどない。
イ 内戦の影響で、地雷など戦争の爪痕が未だにたくさん残っている国。
ウ 稲作を中心とする農業国で全体的には貧しいが、子どもや若者が多く活気ある国。
エ 世界遺産アンコールワットがあり、観光客が増加している国。
オ 外国からの投資が盛んで、近年、経済成長率の伸びが著しい。

③ 遠くて、遠い国？

- ・フライト 6 時間 + 2 時間は遠いのか、近いのか？

在日外国人	2018/12 (千人)
中国	764
韓国	449
ベトナム	330
フィリピン	271
ネパール	88
・	
カンボジア	12

在外日本人	2018/12 (千人)
中国	124
タイ	72
・	
・	
カンボジア	2.5

- ・カンボジア人には「遠くて近い国、ニッポン」
- ・日本への輸出 2018：1776 億円（衣類・履物） 日本からの輸入：466（車・バイク・一般機械等）
「車・バイクは、ほとんど日本製」 「中古品でも日本製品が高い」
「知識人からの信頼度ナンバーワンの国ニッポン」 「誰もが好きな国ニッポン」

④ 内戦後のマイナスからのスタート

- ・ポルポト政権下での地縁・血縁・家族の分断
特に知識層の虐殺「リーダー不在の戦後社会」 共同（協働・組合）へのトラウマ
- ・国連 P K O（Peacekeeping Operations）への自衛隊派遣
撤退後も戦後復興に尽力（民主選挙、地雷処理、インフラ整備など）
- ・親日国カンボジア「500 リエル紙幣に日本の国旗」

⑤ 貧しいからこそ子どもたちへの期待

- ・「国づくりはひとづくり」、教育活動支援
3 N 問題「校舎・教師（給料）・学校運営資金がない！」
- ・子ども若者の国カンボジア、中央年齢 25 歳（日本 46 歳）
- ・2009 年より主として学校施設建設支援
- ・2013 年バイヨン中学校開校での先進的教育、太陽光発電・P C・Wi-Fi・運動会への挑戦



⑥ 寄附のセミナー発表原稿「グローバル社会に育つカンボジア学校づくり支援」

- ・寄付のセミナー事業の趣旨
- ・バイヨン中学校での教育活動支援
- ・今後の支援活動 環境教育の充実と実践活動

《発表者：金田文子、篠田恵》

- 上記発表を踏まえ運動会実践の経緯
 - ・運動会実施のねらいとその計画
 - ・第4回バイヨン中学校運動会VTR (YouTube)
 - ・実践の手ごたえ・感想 (金田勝己)

⑦ アンコール遺跡観光の光と影

- ・日本人の「行ってみたい3大世界遺産」 ピラミッド マチュピチュ アンコールワット
- ・年々増加の外国人観光客 500万人超
- 国家予算 7000 億円の 60% を超す観光産業収入
- ・環境保護問題より利益誘導政策
- ・環境教育と郷土を育てる学力の育成

※寄附のセミナー発表内容の確認

◆人口オーナス期を迎えている周辺国

⑧ 経済発展がもたらすもの

- ・ここ数年間 7% 第の経済成長率 (国別 6 位)
- ・人口ボーナス期を迎えるカンボジア
- ・人口オーナス期を迎えている周辺国
 - ※人口ボーナス期：生産人口 15~65 歳が非生産人口より多い。
 - 人口オーナス期はその逆。
- ・都市と農村の格差 (教育・医療・エネルギー)

アジアの主な国のオーナス期突入年代			
国名	年代	国名	年代
日本	1990	タイ	2015
中国	2010	ベトナム	2015
シンガポール	2010	カンボジア	2060
韓国	2015		

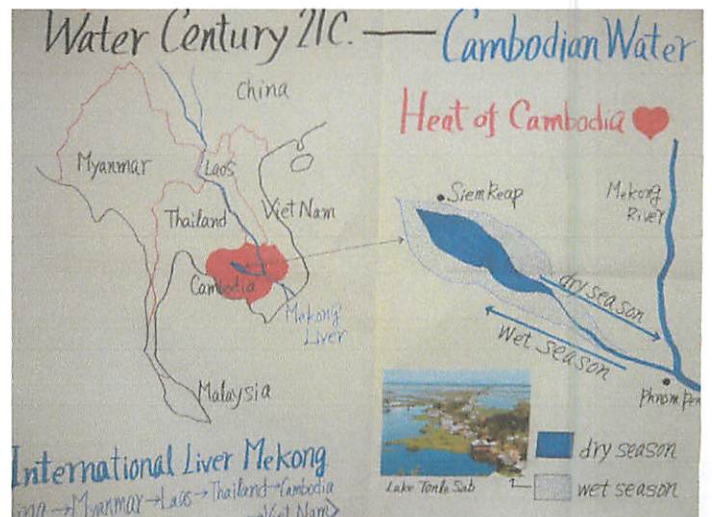
○カンボジア (途上国) が抱える危機

- ◆農業環境の危機
 - ・基幹労働力の流出
 - ・干ばつ・酸性雨など水問題
- ◆基本的な人権の危機
 - ・農村と都市の教育格差・医療格差
- ◆経済のグローバル化による危機
 - ・シアヌークビルの危機
 - ・経済投資の名のものと国土の収奪

終わりに

国際交流の人間化

- 「チョロモイファミリー」
- 「共にによりよく生きようとする期待の広がり」



参考資料「訪カン者、訪日者の声」

- 資料Ⅰ：公募ツアー参加者 100 字コメント「新たな発見 in カンボジア」
- 資料Ⅱ：第 7 回カンボジア教員使節団訪日感想メモ

寄付のセミナープレゼン内容「グローバル社会に育つカンボジア学校づくり支援」

令和元年 10 月 25 日 於：蒲郡高等学校

私は、ご当地蒲郡に本部もつNPO法人オアシスの金田文子と申します。

私たちオアシスは、1990 年代よりアフリカでの支援活動を皮切りに、2009 年からはカンボジアの世界遺産アンコールワットのあるシェムリアップの町に活動拠点を置き、主に中学校で教育活動支援を行っている団体です。

まず、タイトルの「グローバル」という言葉ではありますが、これはみなさんもお存じの「グローバル」と「ローカル」を組み合わせた造語であります。「世界的と地域的の両面を併せ持っている」という意味合いで、ご理解ください。

さて、私たちは、本セミナーを通して寄付金をいただけるとするなら、それらはすべてカンボジアにあるバイヨン中学校の環境教育の活動に使っていきたいと考えます。

このバイヨン中学校は、世界遺産アンコールワット遺跡のすぐ西側にあり、2013年に開校しました。これは国が造った学校ではなく、現地の団体JSTを中心として、私たちオアシスや日本・アメリカの志のある多くの人たちの支援でできた学校です。公立中学校として位置づけられていますが、国からの学校予算はわずかで、多くは開校に関わった団体によって支えられています。その現実からしても、バイヨン中学校はグローバルであります。

2019 年度は513名の生徒に対して校長を含め14名の先生が、午前午後の2部制で指導にあたっています。私たちオアシスは、開校当初より主に技能・技術の習得を目指す教科教育を中心として各種教育活動の充実に努力してきました。特に、体育授業の発展として運動会の開催に挑戦しました。第4回を迎えた本年度の運動会は、村人総出の地域最大の行事に発展してきています。地域と共に育つ「ローカルな基盤」を確立しつつある教育活動と言えます。

さらに、毎年現地の先生方を愛知県に招き、学校現場での研修を実施しています。たまたま昨年度は、本校への参観が実現し、蒲高生の皆さんの熱心な勉強ぶり、そして多彩な授業の内容を学んで帰国しました。

さて、最近のニュースとして、地球環境保護を訴えるスウェーデンの高校生グレタ・トゥンペリさんを中心とする中・高校生の世界規模の抗議活動が話題となっています。ご存じでしょうか。

私たちも昨年度より地域にあるアンコール遺跡やカンボジアの水資源とし重要なトンレサップ湖の環境保護に関わる学習を立ち上げました。その具体的取り組みと、今回いただける予定の寄付金の使途について、篠田が説明いたします。

篠田恵と申します。

開校7年目を迎えるバイヨン中学校は、日本の学校の清掃活動を手本に生徒・先生が力を合わせて校内美化に取り組み、カンボジアの学校では非常に珍しい「ゴミのない綺麗な学校」

が維持されてきています。

しかし、いったん村やシェムリアップ市街を歩いてみると、紙類やプラスチックゴミの散乱が非常に目立ちます。現状のごみ処理の方法としては埋立てる方法しかとっておらず、焼却やリサイクルシステムはほとんど機能していないと言えます。

また、アンコール遺跡へは年間 500 万人もの外国人観光客が訪れ、ゴミや排気ガスの増加が懸念されています。この排気ガスの増加は、焼畑作りの野焼きも加わって酸性雨の発生要因となり、熱帯ジャングルの減少や遺跡建造物の劣化に影響が出てきています。これらのことは、いちカンボジアの損失のみならず地球規模での損失と言うべきでしょう。

私たちはバイヨン中学校の先生たちの協力を得て、昨年度より「大好きシェムリアップ！私たちの環境保護への挑戦」と題して、学区やトンレサップ湖、そしてアンコール遺跡周辺の美化活動に着手しました。

そこで、皆さんに提案いたします。バイヨン中学校の生徒たちと共に環境保護への活動に加わる方法について一例をお示しいたします。

それは、皆さんの環境保護への思いを文字や写真でデザインし、バイヨン中学校への応援メッセージを加えた英文パンフレットを作成します。次に、それをバイヨン中学校が行うアンコール遺跡やトンレサップ湖での美化活動の中で、観光客に対して配布してもらうことで、みなさんも環境保護活動に参加していく取り組みです。いかがでしょうか。

もしこの活動に参加する場合、パンフレットを作る紙代・印刷代などは今回のセミナーでの寄付金を使わせていただきます。他にも、バス 10 台分とゴミ搬送車両 2 台分の費用の一部に使いたいと考えています。

現在私たちがやっている活動は、国境を越えた遠い国カンボジアのことで「グローバルな位置づけ」となりますが、教育や環境などの内容は、私たちの身近な生活の中に共通してある課題で「ローカルな内容」でもあります。このような考え方に立つと、世界の遠い国の出来事も「遠くて近いグローバルな内容」としてとらえることができます。

いかがだったでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。

《注》

- 本講演内容は、県民文化局県民生活部社会活動推進課主催による中・高校生対象の寄附意識高揚を目的とした事業で、本年度が第 2 回目です。
- 県内高校 3 校、中学校 1 校が対象校として、それぞれの学校で 3 団体が各自団体の活動を紹介します。それを受け、参加生徒が「寄付をするなら、どの団体に寄付をするか」を判断し投票をします。投票数に応じて原資 20 万円（地元企業スポンサー）が比例配分されます。
- 投票結果発表及び投票生徒との意見交換会は、11 月 15 日（金）に実施されます。